

VERITAS vos liberabit



鹿兒島純心女子大学
附属図書館報
第11号(No.11)
編集:図書館運営委員会
発行日:2022.3.14

特集 withコロナと読書

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

■巻頭言

図書館長 教授 七川 正一

2021年は東京2020オリンピックの開催をはじめ様々なイベントが新型コロナウイルスの感染防止対策と共に実施された1年でした。一時期、猛威を振るっていた新型コロナウイルスの感染拡大もワクチン接種率の増加が原因かどうか定かではありませんが、急速に減少する傾向に転じました。今後の感染の再拡大に関してはオミクロン株の出現など不確定ではありますが、新型コロナウイルスと共に生きるという意味で「withコロナ」という言葉が周知されるようになりました。この言葉は新型コロナウイルス感染に際して、人々の暮らし方や価値観の変化を論じる際などに使われるようになったものです。今後、我々は新型コロナウイルスの感染拡大により変化した生活スタイルをその時の状況を見極め適宜、柔軟に変更し対応していく必要性が求められると考えられます。

ところで、本学の図書館の現状は「withコロナ」という視点でどうなのかという検証が必要不可欠です。現時点において図書館は制限付きの運営が継続している状態です。大学図書館は学生および教員に対し、教育活動ならびに研究活動の支援という役割が求められています。これらを実現するために、日々の清掃・消毒などが行われております。加えて、本年度より、学内外問わずに書籍の閲覧が可能な電子書籍の導入を始めました。まだ利用できる書籍数は少ないですが、今後、数が増えていくと思っておりますのでご期待ください。

ところで、皆さんは今年どのような本と出会ったでしょうか。おそらく皆様はスマートフォンをはじめとする各種デバイスを所持しておられることでしょう。これらの普及に伴い、InstagramやTikTok等のSNSが毎日、

当たり前のように更新され使用されています。結果、個人が自らの知識、経験、感情等をリアルタイムかつ高い自由度の基に発信できる世の中になりました。反面、トラブルも後を絶たない現状があります。つまり、SNSを「どのように使用するか」といった用途のあり方によって、SNSは益にもなりますが、危険なサービスになります。先日、月刊情報誌「日経トレンディ」より発表された「2021年ヒット商品ベスト30」の1位は「TikTok売れ」でした。これは今の世相を象徴するものではないかと考えられます。この「TikTok売れ」とは動画アプリTikTokがきっかけとなって商品が売れる現象のことで、紹介された様々な商品の販売数が向上したようです。これらの商品の中には、当然のことながら書籍の紹介も含まれています。皆様が書籍と出会う方法にはどのようなものがあるでしょうか。本屋さんあるいは図書館でたまたま目に入ったなど様々な機会があると考えられますが、このような現代のツールを活用してみるのも書籍と出会うためには良い方法のひとつかもしれません。

最後に、これからしばらく続くであろうと推測される「withコロナ」の現状をタイムリーに分析し、制限された条件ではありますが、本学の図書館が皆様にとってより快適な空間となるよう、できる限り努めてまいりますので是非とも図書館のホームページにアクセスしてください。そして、実際に図書館に足を運んでください。もしかしたら素晴らしい出会いが生まれるかもしれません…。

感染対策を万全にしてお待ちしています。



contents

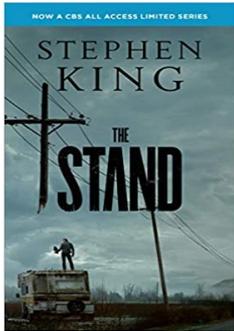
巻頭言	1
図書館長 七川 正一	
Book Review	2
ルイズ・ケネディ・中村 柳園 順子	
(看護2) 濱田 怜奈	5
(教育2) 大川内陽菜	
(健栄2) 中武 愛	
図書館を使いこなす	6
(大学院) 川野 佑	
絵本を楽しむ時間	7
山元 有子	
英語で読んでみよう!	8
三間 晶生	
イベント情報	10
聖母月のコラボ企画 スタンプラリー	
お知らせ	12
編集後記	



Book Review



先生方にお薦めの本を紹介していただきました



The Stand
by Stephen King
(Anchor)

図書館所在
大学2F洋書 933.7 KI

As the pandemic forced people into lockdowns over the past 2 years, one positive outcome was an increase in book sales and reading time as people settled in to reread old favorites or pick up something new. One novel which consistently found itself talked about and shunted around conspiracy theory sites was *The Stand*, by Stephen King, first published back in 1980. A sprawling novel set in the 1980's, it has remained a fan favorite for over 40 years and garnered new fans as this story- of a viral pandemic wiping out 99% of the world's population- eerily mirrored what contemporary readers were actually living through, albeit thankfully, on a much less dangerous scale.

The story begins in 1980's America, when an accident at a bio-warfare laboratory opens a Pandora's box of lethal influenza, agonizingly killing almost everyone within weeks, destroying all law and order and plunging America and the world into a post-apocalyptic nightmare. We come to see that the survivors we are introduced to – Frannie, Harold, Nick, Nadine, Larry, Glen, Tom, Ralph, Stu among others – fall into 2 groups : the 'good' and the 'bad'. Not only do the survivors have to endure the horror of the pandemic itself and its aftermath, but King adds elements of the supernatural and biblical to the story, raising the stakes for the characters and the sense of suspense for the reader. All of the characters have dreamed of a very old woman called Mother Abigail, who calls them to her in Nebraska with a message from God, and so it is that the characters meet up during various points

of their journey there. But their dreams are also haunted by the dark man; the faceless man; 'the walkin dude', also known as Randal Flagg, who may well be the devil in blue jeans. Some of these characters will choose to side with Flagg and his growing community in Las Vegas despite the fear and crucifixions that take place there. The others try to build a free state in Colorado, but a *stand* between the two groups must inevitably take place.

What makes this book still rate 4.3 from over 680,000 reviews on the internet, is that King is the master of storytelling. He never set out to reinvent the literary art form, so he writes in a way that is accessible to everyone. He paints characters we recognize, who we can relate to and understand through their backstories. We become emotionally invested in what happens to them, quite happy to keep turning all 1300 pages of the uncut version to that last page. And what does happen in the end ? Flagg, Larry, Ralph and all of Las Vegas are wiped out in a nuclear explosion. Stu is unhappy with the decisions being made in the free state and leaves with Frannie, his love, and her baby. And so, just as when Pandora's box unleashed all the evils of the world, the last thing in it was hope, Stu and Frannie start a new life in Maine, have a child together and hope for a new and better future. Alas, the final chapter in the book sees Flagg awaken/reborn somewhere, worshipped as a god by the people there and waiting to take his place among men and create chaos and fear once more.

The Stand is a roller-coaster ride of a story with characters we come to know very well, and maybe with a message our post pandemic world could heed : learn from past mistakes and choose wisely in the future.

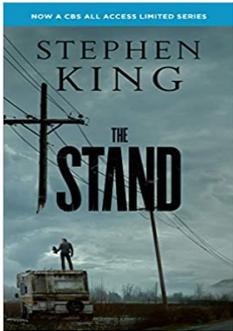
Department of Education and Psychology
Associate professor

Louise Kennedy Nakamura



Book Review

《日本語訳》



The Stand
by Stephen King
(Anchor)

図書館所在
大学2F洋書 933.7 KI

この2年間、パンデミックによって人々が閉鎖的な生活を余儀なくされる中、よかった面は、書籍の売上げの伸びと、昔からのお気に入りの本を読み返したり、新しい本を手にとったりして読書時間が増えたことです。

そんな中、陰謀論サイトなどで常に話題となった小説が、スティーブン・キングの『ザ・スタンド』です。この本が出版されたのは、今を遡ること42年前の1980年です。1980年代を舞台にしたこの小説は、40年以上の長きにわたりファンの中で愛され続けていると同時に、ウイルス性のパンデミックによって世界人口の99%が絶滅するというこの物語は、ありがたいことに危険度ははるかに低いものの、現代の読者が実際に経験していることを不気味に映し出していることによって新たな読者を集めました。

物語は1980年代のアメリカで始まります。生物兵器研究所での事故により致死性感染症のパンドラの箱が開かれ、数週間で、ほとんどすべての人が苦しみながら死亡し、すべての法と秩序が破壊され、アメリカと世界が終末論的な悪夢に陥りました。

登場する生存者たちは、フラニー、ハロルド、ニック、ナディーン、ラリー、グレン、トム、ラルフ、スチューなどで、「善」と「悪」の2つのグループに分かれます。そして、彼らはパンデミックとその余波の恐怖に耐えて生きのですが、超自然現象や聖書の要素が物語に加わって、巧みな人物描写で読者のサスペンス感覚を高めています。登場人物たちは皆、マザー・アバゲイルと呼ばれる老婆の夢を見ており、彼女が神からのメッセージとともにネブラスカの彼女のもとに彼ら را呼び寄せます。しかし、彼らの夢には、暗い男、顔のない男、「歩く男」あるいはランダル・フラッグと呼ばれる、ブルージーンズをはいた悪魔かもしれない男がつかまといます。そして、生

存者たちは、恐怖と十字架刑にもかかわらず、フラッグと彼の築くラスベガスのコミュニティの側に立つことを選ぶ者もいれば、コロラドに自由な国家を築こうとする者もいます。しかし、2つのグループ間の争いは避けられません。

本書がインターネット上の68万件以上のレビューから、いまだに4.3という評価を得ているのは、キングがストーリーテリングの達人であるからでしょう。彼は文学芸術の形式を革新しようとはせず誰にでも親しみやすいスタイルで書いています。彼は、私たちが分かる人物を描き、彼らの背景を理解し共感することができます。私たちは、彼らの身に起こることに感情移入し、ノーカット版の1300ページ(英語版)すべてを最後のページまでめぐり続けることができるのです。そして、この話の最後はどうなるのでしょうか？フラッグ、ラリー、ラルフ、そしてラスベガス全体が核爆発で破壊されます。ステューは自由主義国家の決定に不満で、愛するフラニーとその赤ん坊を連れて出て行きます。そして、パンドラの箱が世界のあらゆる悪を解き放ったとき、その中に最後にあったのが希望だったように、ステューとフラニーは彼らの子どもとともにメイン州で新しい生活を始め、新しいより良い未来を願うのでした。しかし、本書の最終章では、フラッグがどこかで目覚め／生まれ変わり、そこの人々から神として崇められ、人々の間で自分の居場所を得て、再び混沌と恐怖を作り出そうと待ち構えているのがわかります。

『ザ・スタンド』は、ジェットコースターのように疾走する物語であり、登場人物をよく知ることができます。そして、パンデミック後の世界が注目すべきメッセージは、過去の過ちから学び、未来において賢明な選択をするということなのかもしれません。

教育・心理学科

准教授 ルイーズ・ケネディ・中村

日本語版は、深町真理子の訳で文藝春秋社より出版
『ザ・スタンド(上)』ISBN 9784163193908
『ザ・スタンド(下)』ISBN 9784163194707
上下巻で1444ページ。本学図書館は未所蔵。
ぜひ、英語版にチャレンジしてください。

(編集部訳)



Book Review



先生方にお薦めの本を紹介していただきました



『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた～あなたがあなたらしくいられるための29問～』
一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著 (明石書店)

図書館所在 大学1F和書 367.1 HI

この本は、皆さんと同じ大学生ら（一橋大学社会学部2017・2018年度佐藤ゼミ）がゼミの課外活動の成果をまとめたものです。「ジェンダーについて」「真剣に考えた」ところ、時に友人、知人、特に家族からさまざまな「問い」を投げかけられ、「家でゼミで学んだことを話していたらお父さんと険悪になって困ったことになった」こともしばしば(?)だったとか。そこで「問われたクエスチョンを集めて、みんなでグットアンサーを考え後輩たちに引き継いでいったら？」と指導教員の提案から誕生したのが本書。そのため皆さんと同じ大学生の視点からみた「ジェンダー」に関する等身大の疑問と解答がぎっしり詰まっています。

いまでこそ、耳にする機会が増えてきた「ジェンダー」という用語ですが、大学の講義等で学問として学ぶ機会がない限り「聞いたことはあってもよくわからない」方が多いかもしれません。本書は、ジェンダーを「ある性別を特定の役割に結びつけたり、男・女だから〇〇すべき、と考えたり、ある行動の原因をその人の性別に求めたりするような考え方を指す言葉」と説明しています。一般的にジェンダーは自然なもので生まれつき決まっている、と思われがちですが、実は社会や文化、時代の変化に影響され変容してきたものに過ぎません。「はじめに」では、「皆それぞれ個性を持っているのに、男女というおおざっぱな2つにふりわけられ、役割や行動に制約を受けがち」と分析しています。その上で「(ジェンダーを学ぶことを通して)自分が何に縛られて生きているのか、これまで感じてきた「生きづらさ」を解消することができるようになる」ことを後輩へのメッ

セージとして添えています。

タイトルのみご紹介すると、第1章「これってどうなの？素朴な疑問」（女子校の意義、女子力について等）、第2章では「セクシャルマイノリティについてもっと知りたい！」（友達だと思っていたのに告られた・・・誰かに相談していい？等）、第3章「フェミニズムって怖いもの？」、第4章「めざしているのは逆差別？」、第5章「性暴力についてもっと考えたい！」など、大学生の日常生活や大学生活に密着したテーマが盛りだくさん。テレビや新聞でよく取り上げられて聞いたことはあるけど詳しくはわからない、よくわからないけど怖いイメージはどこから来るの？等々。ポジティブアクションを題材に、表面だけでなく背景にある事情や導入の経緯を学ぶことの重要性、性暴力など自分には関係ないと避けられがちな問題にも踏み込み、その根幹に何があるのかを鋭く検証しています。各章には参考文献も多数紹介されていますので、読み進める中で興味が沸いたテーマを自身で掘り下げ、問いの答えを探す旅にでるのも、読書後の新たな楽しい時間になるかもしれませんね！

2022年1月鹿児島市でも（全国初から7年も遅れて！）パートナーシップ宣誓制度が開始しました。「あとがき」の指導教員同様、私も「あの頃の自分にこうした機会があったなら」と呟きつつ、「是非大学生時代に体験していただきたい一冊」としてご紹介致します。

看護学科 准教授 柳園 順子

Book Review

学生さんにお薦めの本を紹介していただきました



『何者』 朝井リョウ著
(新潮社)

図書館所在
1F和書 913.6 A

みなさんは、自分がどんな人か考えたことはありますか？

私は自分のことをかなりズボラだと思っています。課題は提出日ギリギリで出すタイプです。部屋の片付けをしようとしても、片付くどころか片付ける前よりひどくなってしまうこともあります。そろそろ本気で直さないと…。

このように、みなさんも自分自身がどんな人なのか、何か一つは思いつくのではないかと思います。しかし自分のことを自分がすべて知っているとは限りません。もしかしたら周りだけが知っている自分の姿もあるかもしれません。

この本は、そんな自分探しをしながら就職活動をする大学生たちのお話です。就活生である主人公は、ひよんなことから同じ大学の仲間たちと就活を始めます。エントリーシートをお互いに採点して評価したり、就活が順調に進む仲間を羨んで人間関係が複雑に変化していったりSNSに没頭したり…。大学生である私たちも共感できるいろいろな困難を乗り越えて、それぞれが自分の道を切り開き成長していきます。

最近、多くの人が「あの人はこういう人」とか、他人のことばかりを見ていて自分を見ていないような気がします。「自分はどんな人か」「何になりたいのか」を知るためには、短所が見つかったとしてもそれを隠さず受け入れることが大切だと感じました。

登場人物の考え方と自分の考え方を比較しながら読むと、違った見方もできて一層おもしろくなると思います。ぜひ読んでみてください。

看護学科2年 濱田 怜奈



『ヨソでは聞けない話
「食べ物」のウラ』
[〇秘]情報取材班編 (青春出版社)

図書館所在 大学1F文庫 596 MA

実は最近、私はお菓子作りに、はまっています。そのことから、お菓子についての本を見ました。その時、とても興味深い本が近くにあり、手に取ってみました。そこには、身近なお菓子の誕生秘話や、地方料理等の秘密など、まさしく「食べ物」のウラの話が盛りだくさんでした。誕生秘話の中には、クスッと笑えるような話もあり、なにより本が読みやすかったです。食べ物ごとにウラ話が書かれているため、どこから読んでも問題ないところが、難しい本が苦手な私には読みやすいと、感じた点だと思います。

本全体で特に興味を持てた話が、ポテトチップスの誕生の話です。簡単にいうと、アメリカの1人のコックさんが客とケンカをして、腹立ちまぎれに作ってできたそうです。この話から他の人気なお菓子もこのような面白い誕生の秘密を隠しているかもしれないと思いました。そう考えると、わくわくしてきました。本の内容だけではなく、他のお菓子の誕生についても調べてみたいです。

少し違うアプローチでは、チョコレートではなく、包みである銀紙の秘密について書いてあります。チョコレートには、脂肪分が多く含まれているため、光や湿気にさらされると酸化して、風味や味が落ちてしまうから銀紙(アルミニウム箔)をしているらしいです。でも、疑問が残ります。別にアルミニウムにこだわる必要はないのではないかと。しかし、その理由も書かれていて、開けることや包み直すことが簡単にできるからだそうです。また、バターのパッケージもアルミ箔だそうです。このような食べ物本体だけではなく、それを包むものの工夫について知るのも、面白いと思いました。

これらの食べ物について裏話を知れたため、ポテトチップス・チョコレート等食べる時は、思い出して今までよりも味わって食べることができると思います。そして、お菓子作りももっと楽しめそうです。

教育・心理学科2年 大川内 陽菜



『星の子』 今村夏子著
(朝日新聞出版)

図書館所在
大学1F和書 913.6 I

この本は新興宗教にのめり込む両親のもとで育っていく娘・ちひろを描いたものです。ちひろは幼い頃、体が弱い子でした。ちひろにひどい湿疹があらわれた頃、両親は治療をするためにある水を使い始めます。このことをきっかけに両親は新興宗教にどんだんのめり込んでいくのでした。ちひろも何の疑いもなく宗教を信じていました。しかし、ちひろの姉だけは一度も信じることなく、ついにちひろが中学生の頃、家を出て行ってしまいました。そして、ちひろは学校や親戚の間でも浮いた存在となってしまいます。友達が出来ずにいたちひろに小学4年生の頃、なべちゃんという転校生の友達が出来ました。彼女は明るくよくしゃべる子で、ちひろ自身の問題についてははっきりと指摘する子でした。ちひろは恋をすること、人から裏切られることなど様々な出来事を経験し成長していく中で、宗教に残るか、

両親と別れるかの選択をします。

私はこの本を読んで、両親が新興宗教にのめり込んで、家族の状況も決して良いとは言えず、また学校や親戚でも孤立しているのに、気にすることのないちひろに驚かされました。私がちひろの立場であれば、色々なことに悩まされ、孤立することの怖さを感じると思います。クラスメイトの親から苦情の電話がきて、その子から話しかけられなくなっても悲しい思いは全く読み取れません。成るようになる、なったことに反抗しないという考え方がちひろの性格であり、このような環境にあり、落ち込んでいく世界で生きていく希望になっていると感じました。

コロナ禍で大学生になり、自分の思い描いていたものとは全く違う生活が始まり、それが今でも続き日常となってきました。思い通りにいかないことも多く、とても楽しみにしていた行事もほとんどありません。でも、そんな中で「成るようになる、なったことに反抗しない」というちひろの性格に救われました。考えすぎて、落ち込んでしまうような人も、時にはのんびりと能天気な考え方を持つことでコロナ禍の不安も軽くなると思いました。コロナ禍で思い通りに行かず、考え込んでしまう人にぜひ手に取って読んでほしい本です。

健康栄養学科2年 中武 愛

私が自分の興味以外の本を借りる目的で図書館に行くようになったのは、大学に入学してからです。まず、大学の講義で与えられたテーマを調べるために、講義の時間に図書館で本を探しました。そこで、図書館内のパソコンを使い、自分の調べたいテーマの本を検索できることを知りました。そして探すうちに、講義で扱うテーマの本がある場所、学科や実習で必要な本がある場所などがわかりました。さらに、本をコピーするために、コピー機の使い方も練習しました。それまでは、学校にあるような大きいコピー機を触ることすらほとんどなかったもので、用紙のサイズや倍率、用紙の向きなど

設定する方法を知りませんでした。図書館の資料をコピーするルールは一度では覚えられず、何度か図書館の先生に教えていただきました。

また、時事を知るためや卒業論文に必要な情報を集めるために、新聞を読みに行っていたこともあり、私は新聞を取っていませんでした。図書館にある様々な種類の新聞のなかのいくつかを選び、新聞1面の社説や共通して取り上げられていることを主に読んでいました。

使いこなす!
図書館

LIBRARY

大学院1年 川野 佑

大学院生になってからは、講義で与えられたテーマを調べるための本を2冊以上借りるようにしています。2冊以上借りることで、内容を読み比べて使いたい言葉を選んだり、情報の確かさを得たりすることができるからです。このとき、図書館には同じテーマの本が何冊もあることを知りました。また、新旧いろいろな本があるため、テーマによっては、昔の情報も新しい情報も集めることができました。この図書館を利用して5年が経ちますが、まだまだ使いこなせていないなと思いました。

講義のおかげというのが大きいですが、私の図書館の利用の仕方は、その時々必要に応じて大幅に変わるようになりました。きっとこれからも変わると思います。そのとき、新たに知る図書館の利用の仕組みが、まだあるのではないかと思うと楽しみです。





絵本を楽しむ時間



健康栄養学科 准教授 山元 有子

「懐かしい」，「この絵本，読んだことがある」，「今も家にある」読み聞かせ用として準備した絵本が置いてある教卓前に集まった高校生たちの声である。絵本のページを開きながら自らの体験やストーリーを嬉しそうに友人らに語りかけている。

このような光景に出会うたびに，幼い頃の彼らは絵本のある空間で，家族からどのような語りかけをしてもらったのだろうかと思ってしまう。きっと心地よい記憶がよみがえり，その当時の懐かしい思い出を誰かに伝えたくなったのだろう。

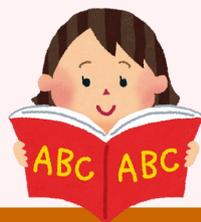
今年度の「家族論」では，生命の誕生，子どもの成長，家族の病気，老い，死，離婚，ジェンダーなど人の一生や家族に関するテーマの絵本を授業で利用した。文献や統計資料のデータをもとに家族の変遷や様相，諸課題について考える講義の後半は，絵本を活用し理論やデータだけでは把握できないものを心で感じとって欲しいと考えたからだ。

「幼い時にはわからなかったジェンダーや家族の絆の深さを感じた」，「小さい頃

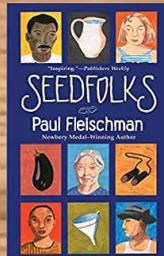
に気づけなかった絵本のメッセージが今になってすごく心にしみて，当時とは違う楽しみ方を知った」，「絵本に触れてなつかしい記憶がよみがえり，文字だけではなく絵を見ることで心が温かくなった」などの感想があった。登場人物を自分や家族と重ね合わせ，様々な状況下の家族の思いを想像したり，疑似体験をしたりすることにより，家族の存在や命の尊さ，人と人との繋がりの大切さをあらためて深く考える機会になったようである。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により，様々な活動が制限され，人と交流する機会も減少し，自宅で過ごす時間が増えた人も多い。久しぶりに絵本の世界をのぞいてみませんか。コロナ禍で先が見えない日々が続くなか，心安らぐ時間を過ごせるでしょう。お気に入りの絵本をじっくり読んだり，初めて手にとった絵本の展開にドキドキしながらページをめくったりするプロセスをとおして。





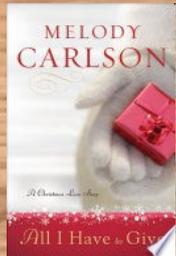
英語で読んでみよう!



Seedfolks

by Paul Fleischman

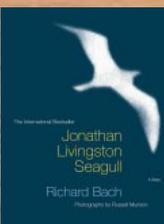
Fleischmanには *Whirligig* や *Seek* がありますが、まずはこれから。はまります。



All I Have to Give : a Christmas love story

by Melody Carlson

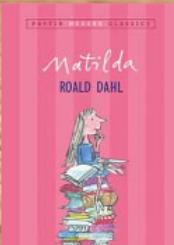
心が温まるストーリー。クリスマスシーズンに読むといいかも。



Jonathan Livingston Seagull

by Richard Bach

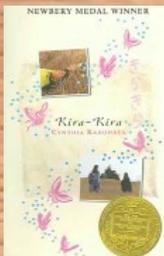
『カモメのジョナサン』で日本でも有名になりました。



Matilda

by Roald Dahl

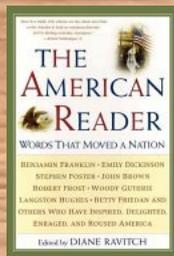
Dahlはどれも楽しいのですが、まずはこれを。最後にひねりのある *Umbrella Man* のようなショートストーリー集も、はまるとどんどん読めるかも。



Kira-Kira

by Cynthia Kadohata

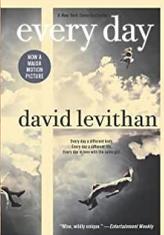
日系2世の姉妹の感動的なストーリー。



The American Reader : words that moved a nation

edited by Diane Ravitch

アメリカ史の要所所で人々を動かしたことばの抜粋集です。力強いことばは今も新鮮です。拾い読みをするといいかも。



Every Day

by David Levithan

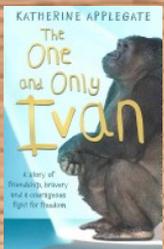
僕には体がない。毎朝目が覚めると誰かの体に入っている。ある日恋をした。彼女に外見は変わるが同じ僕に目をむけてほしい。



The Forgotten Garden

by Kate Morton

自分は誰なのか、自分探してわかったのは？長い休暇にでもゆっくりと主人公と謎解きをするのもいいかも。ゆったりとした優しい英語のスタイルにはまるかも。



The One and Only Ivan

by Katherine Applegate

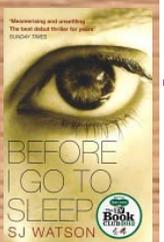
「見せ物小屋」でずっと過ごしてきたその生活に満足しているゴリラのイヴァン。ある日小ゾウがやってきたことで「自由」に憧れることに。実話。



The First Phone Call from Heaven

by Mitch Albom

ある日突然死んだはずの人が天国から電話をかけてきた。これは何を意味するのか。サスペンスタッチで最後はハラハラドキドキ。



Before I Go to Sleep

by S.J. Watson

毎朝目が覚めると自分が誰なのかかわからない女性。「夫」から毎回教えられた自分になって生活しているが、ちょっとしたことから何かがおかしいことに気づく。



Just like Heaven

by Marc Levy

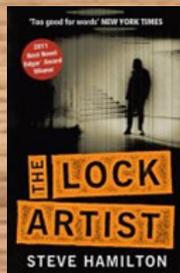
新しく入居したアパートに突然美人の医者が現れた。しかし彼女は植物人間で病院にいるはず…。そして彼女は安楽死の運命に。さてどうなる？

三間晶生先生お薦めの24冊



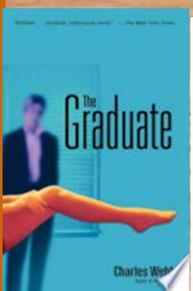
Thirteen Reasons Why by Jay Asher

自殺した転校生からカセットテープが何本か送られてきた。それを聞いているうちにだんだんと自殺の真相がわかってくる。いっきに読めるかも。



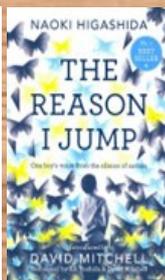
The Lock Artist by Steve Hamilton

18才のマイケル、錠ならどんなものでもあけられる才能があるが、事件にまきこまれてだんだんと深みに入っていく。



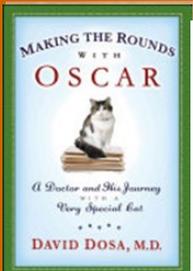
The Graduate by Charles Webb

サイモンとガーファンクルの音楽が浮かぶ人もいれるかも。映画では最後の場面がとても印象的でした。会話が長く読みやすいかも。



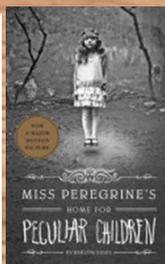
The Reason I Jump : one boy's voice from the silence of autism by Naoki Higashida

自閉症の人がどうしてそのような行動をとるのか、学者の難しいことばではなく、自閉症児本人がわかりやすく説明してくれる。日本語版の英訳。



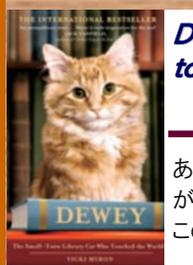
Making the Rounds with Oscar by David Dosa

死期が近づくとその患者の病室にやってきて、ずっと見守ってくれる猫オスカー。実話。



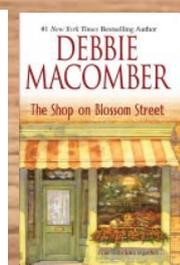
Miss Peregrine's Home for Peculiar Children by Ransom Riggs

ちょっと変わった才能をもつ子供たちが隠れて生活している。そこにその才能を狙ってやってくる人々から逃げられるのか。奇妙な写真が豊富。



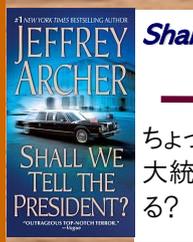
Dewey : the small-town library-cat who touched the world by Vicki Myron

ある日田舎の小さな図書館に拾われた猫デューイが、図書館を、町を、人々を変えていく。世界中からこの猫に会いに来る人たちがいました。実話。



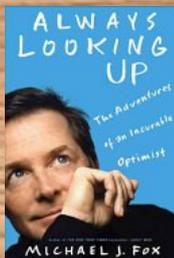
The Shop on Blossom Street by Debbie Macomber

癌を乗り越え新しい人生をスタートしたりディアが編み物の店を始め、そこで出会う人たちとの心の交流。やさしい気持ちになります。



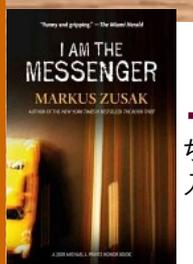
Shall We Tell the President? by Jeffrey Archer

ちょっと長めですが、英語はやさしめです。大統領の暗殺計画を知った新米FBIはどうする？



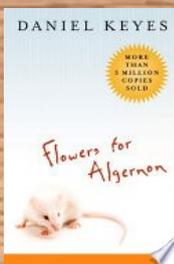
Always Looking up : the adventures of an incurable optimist by Michael J. Fox

Back to the Futureなどに主演したマイケルJ.フォックスがパーキンソン氏病と戦いながらユーモアたっぷりに生きる様。元気もらえます。



I am the Messenger by Markus Zusak

ちょっと長めですが、一度ストーリーに入ると、その緊張感がたまりません。



Flowers for Algernon by Daniel Keyes

『アルジャーノンに花束を』で有名になった知的障害者チャーリー自身による「経過報告」の日記形式小説。英語がだんだんと「成長」していく様子も注目する価値あり。

聖母月企画の紹介

聖母月に寄せて

キリスト教文化研究センター
× 図書館

コラボ企画

カトリック教会では 5月を聖母月と言います

- * 聖母マリアを讃え、
- * 聖母の模範に倣い、
- * 神様への執り成しを祈る月間としています。

聖母マリアや、聖母マリアを模範として生きた人々について書かれた本を読んでみませんか。

ポスターの3つのクイズに答え、読んだ本の感想（DVD試聴も可）を募集します



「書物の聖母」ボッティチェリ画

- Q1.「書物の聖母」が初来日した年は？
展示された美術館の名前は？



「大公の聖母」ラファエロ画

- Q2.この絵が「大公の聖母」と呼ばれるようになった理由は？



「小椅子の聖母」ラファエロ画

- Q3.「小椅子の聖母」のような円形画は、何とよばれる？

クイズの答えは、これまでに発行された図書館報を見るとわかりますよ。
ぜひチャレンジして下さい！



参加して下さった学生さんの読書感想

私は『ルルド』の本を読みました。ルルドは、フランス南西部に位置する小さな街で、聖母マリアが出現したことで知られ、毎年多くの人が訪れます。

この本にはルルドの地で祈りを捧げている人々の写真と聖書のことば(主に詩編)が掲載されています。文字数は少ないのですが、その分、写真から訴えかけられるものが多くありました。

小さなマリア像を持ち、ひざまずいて祈る少年や泣いている女性、ストレッチャーや車椅子から身を乗り出して、マリアが現れたとされる岩に触れる人々。文章では細かく伝えることのできないありのままの状況が写真に収められています。そして横に添えられている聖書のことばがとても深いのです。

私が心に残ったのは「明日のために心配するな。明日は明日が自分で心配するであろう。一日の労苦は一日で足りる。」というマタイ福音書6章34節のことばです。



『ルルド』
菅井日人写真
(サンパウロ)

図書館所在
キリスト教和書
195.7 SU

私はこのことばを読んで、一日一日を大切に生きるようにとされている感じがしました。本当の意味は「心配するのが私たち弱い人間だが、神は私たちの全てを知っていて、一日一日私たちに必要なことしか与えないので、その弱さの身代わりとなって十字架で死んでよみがえった神を信じなさい。」という意味でした。このことばは今の私にとっても当てはまるなと思いました。

大学生生活が始まり、日々不安と隣り合わせで生活していて、毎日たくさん問題が起こり、これから4年間やっていけるかなと思っていましたが、もしかしたら神が私にこの問題をどう乗り越えていくのかを試し、将来の糧にしようとして下さってるのかもしれないと思いました。一日一日全力で過ごし充実した4年間にしたいです。

看護学科1年 東郷 帆花

スタンプラリーに参加してブックレビューを書いた。

ペンネーム、
ストロベリー
さん



やさしさにつまれる小さな物語 / 「小さな親切」運動本部編 / 河出書房新社

この本は、席を譲ってもらった、挨拶をされた、声をかけてもらったなど、小さな親切の投書がまとめられている本です。この本を読んで、みんなが親切だったら、世の中が平和なのになあ。と思いました。他者に関心を持ち、相手がしてほしい事をさりげなく行動に移す。日常の中で自然にそれを実行し続けられる人が真に親切な人なのだとことを教えられました。この「やさしさにつまれる小さな物語」という本には、エッセイを書いた人の年代が書かれています。10代、20代の人達のエッセイが多いことに驚きました。私が一番好きなエッセイは、14歳の方が書いた「先生の言葉」というタイトルの者です。特に「コツコツと努力すれば、できなかったことができるようになり、できるようになれば自分の目標が見えてくる」という部分が好きです。この本には、数多くのエッセイがあり、とても共感する内容もあると思うので、ぜひ読んでみて下さい!!

木曜日にはココアを / 青山美智子著 / 宝島社

この本は、卵焼きを作る、ココアを注文する、ネイルを落とし忘れる、といった小さな出来事がつながって、最後はひとりの命を救うという物語です。川沿いの桜並木のそばに佇む喫茶店「マーブル・カフェ」で出された一杯のココアから始まる、東京とシドニーをつなぐ12色のストーリーがとっても面白いです。この物語は、登場人物の人柄や、その時に置かれている状況や心理状態などを通して描かれているので、とてもすんなり入ってくるし、興味もわいてきて普段何気なく眺めている色というものの美しさを、再発見させられました。物語そのものもやさしくて美しい情景が浮かんできます。私はこの物語の中の「マーブル・カフェ」のオーナーを任された青年の「好きなところにいるだけで、元気になることもあると思います」という部分が好きです。好きなところ、すなわち、それは自分がある理由のある場所ということなのです。「読みたい本ランキング文庫部門第1位」に輝いた本なので、ぜひ1度読んでみて下さい!!

ペンネーム、
マカロンさん



あなたもスタンプラリーに参加してみませんか？

Library Stamp Rally

縦、横、斜め、スタンプが5個並ぶと図書館オリジナルバッグがもらえます！
図書館で毎日開催しているイベントに参加して、スタンプを集めよう！

- 貸出冊数15冊
*何度でも (15冊で1個)
スタンプが買える有効期限は当該年度です。年度が違う貸出冊数はカウントしませんので、スタンプは年度内に買って下さい。
買ったスタンプは4年間有効です。
- 図書館クイズA,B
*各1回のみ
■創立のこころ展示
*1回のみ (用紙はカウンターでお渡しします)
- 図書館でボランティア (配架、書架整理など30分)
*5回まで
- ブックレビューを書く
*5回まで
- 文献検索ガイダンス受講
*各コース1回ずつ
①純大OPAC + my library ②Cinii
③NDL-OPAC ④医中誌Web
⑤J-Stage + 最新有線索引 ⑥PubMed
*事前申し込みが必要です。備え付けの用紙に記入後カウンターへ

詳しくは図書館内のポスターで！！

- 本を借りよう
- クイズをやってみよう
- ブックレビューを書いてみよう
- 文献検索ガイダンスを受講しよう
- たまにはボランティアもいっしょ
- スタンプを5個集めよう

お知らせ

◆感染症対策に努めています

- ・入館・退館の際は手指消毒を
- ・パソコン、タブレットの使用前と使用後は手指消毒を
- ・使った机の上の消毒を
- ・洗面所使用後は洗面台、蛇口の消毒を
- ・座席の間隔をあけて着席を
- ・マスクの着用を

その他、感染症対策を心がけましょう

感染症拡大防止に
ご協力ください



古本募金のご報告



古本募金を開始して5年目となりました。
今年も沢山の本を寄付していただきありがとうございます。いただいた古本は換金され「純心未来基金」へ積み立てられ、学園の教育・研究のために役立てられます。これからも宜しくお願いします。

2021年度 寄付金額合計	24,286円
(内訳)	
大学の除籍本・回収ボックス	21,264円
卒業生・保護者・旧職員ほか	2,018円
鹿児島純心女子短大図書館	4円
きしゃぼん（嵯峨野株式会社）	1,000円

卒業後も利用できます

在学時と比べると利用に制限がありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。（*貸出冊数5冊、貸出期間2週間）
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後、図書館へお越しください。
皆様のご利用をお待ちしています。ただし、新型コロナウイルスが終息するまでは利用できません。ご了承下さい。

編集後記

今年の図書館報のテーマは「withコロナと読書」です。去年のテーマは「新型コロナウイルス禍の読書」でした。二年連続、「コロナ」をテーマにすることには抵抗もありましたが、将来、この館報のバックナンバーを見た方々が、この時期はこんな時代だったんだなあと振り返ってもらえるようにとの思いも込めました。

あちらこちらと外出できない時代なので、本で旅をするのもよいでしょう。ただ、巻頭言にもあるように図書館自体も感染症対策のためいろいろ制限があります。本との出会いもさまざまです。

ぜひ、この図書館報で紹介されている本を手始めに、新しいテーマや分野の本にもチャレンジしてほしいものです。

さらに、三間晶生先生から英語のステップリーディングや多読に最適な24冊をご紹介します。ケネディ先生ご推薦の“The Stand”と共に英語での読書もはじめてみてはいかがでしょうか。

(KM)



鹿児島純心女子大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit

No.11

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2022年3月14日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: veritas@jundai.k-junshin.ac.jp